

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年 2月28日

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--|-----------|--|
| 事業所番号 | 3490200312 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 もちもちの木 | | |
| 事業所名 | グループホーム 古田のおうち | | |
| 所在地 | 〒733-0873 広島市西区古江新町8-32 (電話)082(272)2701 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年2月13日 | 評価結果市町受理日 | |

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490200312&SCD=320 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト |
| 所在地 | 広島市安佐北区口田南4-46-9 |
| 訪問調査日 | 平成24年2月28日 |

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、それぞれの生活歴や日常生活、楽しみや喜ばれたこと等を大切にすることを心がけて、暮らしていただいています。
元倉庫だった建物を利用しており、大きな吹き抜けで解放感があります。
各部屋に使い慣れた家具等を持ってこられています。お風呂は一人用の小さなお風呂です。
食事はスタッフと利用者さんで毎日作ります。リビングでは、洗濯物をたたんだり、テレビをみたり、歌をうたったり、それぞれが普段の暮らしを楽しまれています。
利用者のほとんどが、近くに住んでおられた方です。ご家族や親せきの方が毎日のように気軽に来られています。当グループホームで最期まで過ごしていただけるよう、入所時に話し合い希望に添えるように体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

建物は元倉庫と伺っていたのでいわゆる倉庫の外観をイメージしながら訪問の途についた。近づくると倉庫の外観はあるものの、垢抜けた塗装が施されていた。内装は倉庫の特性を生かし天井が高く、後付のスプリンクラーもスマートに取り付けられ、室内全体に開放感がある。北はグループホーム、南はデイサービスと両者が直線の廊下で結ばれデイサービスの方、ボランティアが自由に訪問でき、地域の方、昔馴染みとの交流が頻繁に行われている。ホームは地域交流広場を高齢者パソコンサロン、子どもミュージカルの開催会場に提供するなど古田の街づくりに積極的にかかわり、いろいろな世代の出入りがホームの利用者の暮らしを豊かにしている。

グループホーム 古田のおうち

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 「やさしい心 迷ったり探さぬよう そばにいるよ!!」を理念にかかげ、生活歴やその人らしい暮らし、不安にならないような居場所づくりを大切にしている。 | 理念は、ミーティング、会議などで管理者が常に繰り返し話し全職員が共有している。 | |
| 2 | 2 | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 地区社協の常任委員として会議や行事に積極的に参加している。また、併設してある交流スペースを、町内会や老人クラブ、子供会等の集いの場として開放している。事業所を見学して頂いたり、事業所だよりを町内会に配付するなどして、理解を得られるよう努力している。 | 古田学区の福祉の街づくりのメンバーとして町内会、老人クラブ女性会などと共に活動している。地域交流広場を子どもミュージカルの会場、高齢者のための地域食堂、子育て支援の会などに提供し、日常的に町の一員として活動している。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 地域包括支援センターと連携を図り、認知症サポーター養成講座等を開催している。また、地域包括と地域住民と共に「認知症になっても安心できるまちづくり委員会」の立ち上げを準備している。 | | |
| 4 | 3 | 運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 地域の人からの意見・評価や支援助力も活用しながら、会議の内容をより充実したものにしている。 | 運営推進会議は2月に1回、民生委員、町内会長、公民館長、地区社協、包括支援センター、家族、理事長、管理者、スタッフが参加して開催し、ホームから入居者のご様子、事業内容、運営状況を報告し皆さんから意見・評価をいただきサービス向上に生かしている。 | |
| 5 | 4 | 市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。 | 各種報告書や提出書類を持参したり、質問や確認事項を問い合わせるなどして、顔のみえる関係づくりに努めている。 | 制度変更の照会、認知症アドバイザー養成講座開催などを通じ積極的に協力関係を築くようにしている。 | |
| 6 | 5 | 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 研修に参加して理解を深め、職員会議等で報告したり話し合ったりして、各スタッフも理解し、心をつなげて、身体拘束が行われないよう防止に努めている。 | 身体拘束について研修し、スタッフで話し合っって身体拘束をしないように努めている。玄関ドアも、夜間以外施錠していない。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 研修に参加して理解を深め、職員会議等で報告したり話し合ったりして、各スタッフも理解し、心をつなげて、虐待が行われないよう防止に努めている。 | | |

グループホーム 古田のおうち

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 研修に参加して理解を深め、職員会議等で報告したり話し合ったりして、各スタッフも理解し、サービスを利用している人への理解やよりサービスが活かせるような支援ができるように努めている。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | ご家族も高齢であったり、理解が難しい方もいらっしゃるため、なるべく大きな字で書類を作成したり、わかりやすくゆっくり説明し、質疑応答を受けるなどの努力をしている。 | | |
| 10 | 6 | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 日頃から、家族との連絡を密にとることにより、苦情等も言ってもらいやすいような雰囲気づくりに努めている。また、外部者への連絡についても、書類に相談先を記入するなどして紹介している。 | 平素から家族と連絡を密にし意見や希望を言いやすい雰囲気づくりに努め、運営に反映させるようにしている。 | |
| 11 | 7 | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 代表者・管理者は常勤で同じ建物に勤めているため、日々、気軽に意見や提案をきけるような雰囲気づくりを行っている。年齢・経験を問わず、良い提案はみんなで取り組んでいっている。また年4回全体会議を開き、意見・提案等を協議している。 | スタッフはミーティングや会議で意見や提案をするほか、日常的に気づきを自由に管理者に伝えサービスの向上に役立たせるようにしている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 互いに協力し合い、各々の基本的な業務だけでなく互いのサポートを行っている。利用者や家族の状況を考慮し、臨機応変に勤務できるような対応をしている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 職員に常に情報や研修内容を知らせ、参加を促すと共に、その報告を会議で行い、皆で共有している。互いの得手不得手を判断し、慣れない事は慣れている者が訓練し互いのスキルアップに努めている。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | 同業者と定期的な交流ネットワークをたちあげており、情報交換や勉強会を実施している。イベント等の催し物では全員に役割分担をし、上記のように互いで補い合う等サービスの向上に努めている。 | | |

グループホーム 古田のおうち

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | <p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p> | <p>相談をお受けした段階から、常に、言葉で表すことのできないご本人の思いなどをくみとれるように努めている。また、担当している入居者を中心に、他の入居者へのサービスについても複数の意見を用いる事によりサービスの質の上昇を心掛けている。本人に出来る事はなるべく行なって頂き、手伝わさせて頂くことで本人の身体的、精神的な状況の維持に努めている。</p> | | |
| 16 | | <p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p> | <p>家族の希望、本人の希望双方に耳を傾け互いに取って良好な関係を築くようにしている。</p> | | |
| 17 | | <p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p> | <p>日ごろから家族に小さなことも報告し連携を高めている。「その時」必要なことを常に話し合っサービスに努めている。</p> | | |
| 18 | | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p> | <p>本人の得意な事(盛り付けや食後の食器拭き等)を手伝って頂き、本人の自尊心を損なう事無く、また互いに(入居者間、入居者と職員間)会話やイベントを通じて信頼関係を築いている。</p> | | |
| 19 | | <p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p> | <p>家族の方が来られた時、積極的に会話等を行って頂き、それだけではなく希望があれば職員と共に身体的な介護、食事の準備等に関わって頂いている。</p> | | |
| 20 | 8 | <p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p> | <p>ご家族の方との会話、近隣の方ならば外出時の出合いを大切に、ほぼ毎日のように来訪者がある。</p> | <p>利用者はご近所の方が多い関係もあるが、馴染の方の訪問もよくあり、外出時の出合いも大切にしている。中にはお位牌を持参され、お寺さんの月参りをホームでされる方もある。</p> | |
| 21 | | <p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p> | <p>パブリックスペースで食事を取って頂いたり、季節季節のイベント毎に出かけたりと関わり合いを取って頂いている。関係づくりが困難の場合は職員が緩やかに関わり改善を行っている。</p> | | |
| 22 | | <p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p> | <p>常に利用者や家族とは、未永い関係を大切にしている。</p> | | |

グループホーム 古田のおうち

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------------|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | 9 | 思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 一人ひとりの希望を大切にしている。意思の表出が困難な利用者も、家族の意見や本人の生活史を参考にし、出来るだけ本人が良い思いで暮らせるように意識して関わっている。 | 一人ひとりの希望、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方は、寄り添って表情をくみ取ったり、家族の意見や本人の生活史を参考に本人本位の暮らしができるよう努めている。 | | |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 利用者のバックグラウンドを重視し、個人の理解へ努めている。本人の生活リズムや交友関係を乱す事無く、こちら側の都合を押し付けないように関わらせて頂いている。 | | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 一日の状態を常にITにより管理・情報の共有を行っている。本人の意思を尊重し、出来る事の維持による身体的、精神的な状況の保持、歩行訓練や排泄時の姿勢保持による筋力の維持などに努めている。 | | | |
| 26 | 10 | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 毎月のモニタリング会議により、意見交換・反省等を行い、その結果を家族に伝え、家族からの意見や情報を頂きケアに生かせるように考えている。職員同士で入居者の況を見、互いの意見を交換することによって偏らないケアを行っている。ケアの見直し等を定期的に行うと共に、緊急時のケアの見直しも臨機応変に行っている。 | 普段から職員全員が注意深く観察し、モニタリング会議でお互いに意見交換し偏らないケアができるよう努めている。家庭生活とホームでの生活のベースの違いなど家族の意見も十分配慮して介護計画を立て、定期的な見直しを行うとともに、緊急時の見直しも臨機応変に行っている。 | | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個別で日々の記録を残し、スタッフが毎日チェックを行っている。毎日情報をITにより共有し、常に個別ケアを図っている。本人の様子と介護状況がわかるようデータを入力している。 | | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | 当法人は、小規模多機能的な事業運営をしており、デイサービスや地域交流広場の利用からグループホームへの入所を検討いただいたり、入所時の逆デイサービスの利用や、個別の手助けを有償サービスで対応していくなど、多彩な支援を行っている。入居者のご家族の方との関わりや地域ボランティアの受け入れ等によって気分転換を図ると共に、日々異なるイベントで楽しみながら関わっている。 | | | |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 地域ボランティアや地域の人との触れ合いを重視し、デイの人が入居者側、逆に入居者側がデイの人に関わりを持つ事で、心身の充実を図っている。 | | | |
| 30 | 11 | かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | それぞれの馴染みのかかりつけ医師を継続できるように連携し、支えてもらうことで家族にも安心感をもって頂いている。月に何度かの受診および往診を行う事によって健康を保って頂いている。また特別な場合は家族の方と相談し対応している。 | それぞれのかかりつけ医への受診のほか、内科医は月2回、歯科医と訪問看護は週1回往診があり、希望者は受診でき適切な医療を受け健康維持に役立っている。また、特別な場合は家族と相談し対応している。 | | |

グループホーム 古田のおうち

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | 看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 日常生活のみならず、排泄時や入浴時等普段は見えない場所での変化等を見つけた場合、看護師に報告し対応をしている。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、ご家族をはじめ、入院先の機関との連携に努めている。家族の方を通じ、また病院関係者との連絡を密にし状況の変化等の把握に努めている。必要な治療が終わり次第、受け入れるように退院前に、病院関係者、主治医、訪問看護、ケアマネ等で退院にむけての協議の場をもつよう体制を整えている。 | | |
| 33 | 12 | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 契約時に看取りについての話し合いをおこなっている。医師、訪問看護等との協議を密にし、職員もその内容を理解することで、ターミナル期へ向かった意志確認をおりにふれ再度行っている。入所者の高齢化・重度化が進み、今後ターミナルケアへの取り組みが望まれるところである。医師、訪問看護等との連携を今以上に密にし、体制整備に努めていきたい。 | 契約時、入所時に看取りについて確認を行っている。医師訪問看護師との連携を密にし、職員も看取りについて研修している。入所後も折に触れ意思確認している。高齢化の進展により更に看取りの件数は増加すると思われる一層の研修が期待される。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 急変の場合は医師の指示を受け、救急車を手配、病院へ職員一名を伴い搬送、同時に管理者、ご家族の方にも報告している。 | | |
| 35 | 13 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 地域住民と共に避難訓練を行い、報告すべき場所や機器、消火器の使い方などについて研修を行っている。 | 連絡先の確認、消火器の使い方など研修し、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。地域に呼びかけ町内会長、近所の方、利用者の家族など協力して頂いている。 | |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 言葉遣いに気を付け、人生の先輩に対する敬意を忘れずに声かけをさせて頂き、同じ視線から会話をする。親しい仲にも礼儀ありの実践。記録はインシャルで行い守秘努力をしている | 尊敬の念を持って接し、言葉の内容や語調に気を付け、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう話しかけている。トイレ誘導など目立たないよう、それとなく支援している。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 意思確認できる人には自己決定して頂いている。意思疎通が難しい方にも、できるだけ納得していただけるように努力してご本人の希望に沿うよう行動し、どうしても実現不可能な場合は本人が納得されるまで説明させて頂く | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 個別のタイムスケジュールをくみ、各人のペースを重んじている。本人の生活ペースを乱す事無く過ごして頂き、食事や排泄等も自然に促すよう声かけをさせて頂く。 | | |

グループホーム 古田のおうち

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 本人の所有されている化粧品や服装等でおしゃれをして頂き、どうしても危険な場合(異食など)が予想される場合は安全な物に交換させて頂く。 | | |
| 40 | 15 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 常に一緒に食事作りや片づけを行い、食事のみならず、日常生活の中の営みとして楽しみながら行っている。食事内容については、スタッフが常に栄養、食べやすさ、好み、彩り等考えて切磋琢磨しているので、利用者からも毎日喜ばれている。 | 食材の購入から利用者も同行し、食事作りや片付けなど一緒に行く。お寿司や、てんぷら、お出かけの弁当、誕生会などの行事食を作ったり、時には差し入れの生きのいい魚の刺身が出たりする。栄養、好み、彩りに配慮し、利用者から好評である。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事摂取量の少ない方には、好みのものを付けるなどの工夫を行っている。食事形態の工夫も、それぞれの状態に合わせて行っている。水分はこまめに摂っていたり、なかなかすまない方には、職員と一緒に飲むなど、環境づくりにも工夫している。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 食事後に洗面所にて個人個人の歯ブラシによって口腔ケアをさせて頂いている。他の方との混同を避けるために本人に直接手渡している。 | | |
| 43 | 16 | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | オムツは必ずしを実践できるように、記録をつけ、時間ごとにトイレ誘導を行ない、いつも気持ちよく生活できるように排泄の支援をしている。 | 日中は、記録を取り時間ごとにトイレ誘導を行い、リハビリパンツで気持ちよく過ごせるように排泄の支援をしている。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 一時間ごとの水分摂取やホットミルク、ホットパック、排泄時のマッサージ等によってなるべく便秘にならないように排泄して頂く。どうしても場合は下剤を服用している。 | | |
| 45 | 17 | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 個別の要望を優先させながら、最低でも2日に1回は、体調を見ながら入浴を楽しんで頂いている。当ホームのお風呂は一人用の風呂なので、状況をみながらスタッフが入浴介助を行い、プライバシーの確保にも努めながらゆったりと入浴を楽しんでいただいている。基本的には一対一の対応だが、他の入居者と一緒に入浴したいという希望があれば行う。 | 2日に1回、本人の希望を優先しゆったりと入浴を楽しんで貰っている。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 個別に排泄への声かけ、体位変換等を行い良眠して頂けるようにケアを行っている。また自由に自室での休息や和室での休息をして頂いている。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 医師、調剤薬局と連携し、職員側で処方箋の説明書と共に管理し、日付を確認し服薬して頂いている。また塗り薬に関しては入浴後や本人の訴えにより職員が塗布する場合もある。 | | |

グループホーム 古田のおうち

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | 役割, 楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 嗜好品, 楽しみごと, 気分転換等の支援をしている。 | 食事前の盛り付けや配膳、食事後の食器拭き、またはイベントごとでのハーモニカ演奏や音頭取りなど本人の得意な事、好きな事を生かして気分転換を行っている。 | | |
| 49 | 18 | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。 | 天気の良い日は玄関で日に当たったり、毎日必ず周囲を散歩をするなどして、気分を変えて頂くようにしている。また歩行訓練を玄関前の駐車場でやっている方もある。 | ホームの周りを散歩したり、スーパーへ買い物に行ったりする。ピクニックなど、みんなで遠出することもある。また、玄関や中庭で日光浴をする方もある。 | |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 日々の食材の買い物に出かけるとともに、いつでも出かけたときにスタッフ間で調整して付き添って支援している。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 基本的にはご本人の意思に任せているが、代筆や取次ぎ等、必要があれば家族の方と相談し決める場合もある。 | | |
| 52 | 19 | 居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 各部屋のドアの色やカーテンを変えている。花壇や中庭に季節の花を植えていつでも鑑賞できるようにしている。パブリックスペースの本棚は家庭的なしつらえのものにしてある。 | 各部屋のドアの色やカーテンを変え変化をつけている。花壇や中庭に季節の花を植えていつでも鑑賞できるようにし、特に、中庭にはフウセンカズラを植え緑のカーテンにして日差しを遮り、可愛い実を楽しんでいる。また、キッチンも居間と対面になっており、ご飯の炊ける匂い、野菜を切る音など家庭的な雰囲気になっている。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 気の合った利用者と食事がとれるように席の配置を配慮している。又ひとりでも和室やソファなど気ままに過ごせるような空間を演出してある。 | | |
| 54 | 20 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | ご本人の馴染みのある家具などを配置し、在宅で過ごされた部屋に出来る限り近づけ、暮らしやすいように配慮している。本人の希望により配置換えをすることももある。 | 家族の写真、仏壇、位牌、筆筒など馴染の家具を持ち込み、できるだけ居心地良く暮らせるようにしている。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 手すりやアコーディオンパーテーション、つかみやすいドアノブ、バリアフリーの床を用いて安全に日々が過ごせるように配慮している。 | | |

グループホーム 古田のおうち

| アウトカム項目 | | | |
|---------|--|--|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 | | ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | | 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | | ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている | | ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている | | ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | | ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | | ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | | ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない |

グループホーム 古田のおうち

| | | | |
|----|---|--|---|
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | | ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている | | 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働けている | | ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない |

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 古田のおうち

作成日 平成24年 2月13日

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点, 課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|---|--|--|------------|
| 1 | 13 | ・職員を育てる仕組みOJT、外部研修等、個人レベルに応じた研修の提供が随時行われていない。 | ・作業、気配りプラスの何を提供すればよいかを各自が考え行動できるようにする。 | ・個々人が自発・意欲的に仕事に向き合えるような動機づけや仕組み、研修を行う。 | 6か月 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。